

在宅医療・介護連携推進事業：住民啓発（事例）

用瀬介護者のつどい（用瀬町社会福祉協議会・鳥取市社協用瀬町総合福祉センター）

テーマ「さいごまで自分らしく豊かな人生のためのわたしたちの心づもり」

日時：平成30年2月16日（金） 10：30～11：30（60分）

場所：用瀬地区保健センター

参加者：10名



【内容】

- ◆ 国民の気持ちと用瀬町の状況
- ◆ 地域包括ケアについて～本当に大切なのは～
- ◆ DVD「我が家（うちげえ）に帰りたい」を見ての話し合い
- ◆ ACP（アドバンス・ケア・プランニング）について

（概要）

スライドにより地域包括ケアの概要、「本人の選択と本人・家族の心構え」が一番大切なことを説明。DVD「我が家（うちげえ）に帰りたい」を視聴した後、参加者の全員で、

1. いざという時に備えて、あなたの人生観・思い・考え方・これから受ける医療やケアを自身で考えること、話し合うことについて、どのように思いますか？
2. 医療介護関係者に希望や思いを事前に伝えておくこと、あなたに代わって意思を伝えてくれる人を決めておくことについて、どのように思いますか？

の2点について話し合った。

話し合いの後は、パンフレット（さいごまで自分らしく豊かな人生のためのわたしたちの心づもり）により、ACP（アドバンス・ケア・プランニング）について解説した。



(話し合いの主な内容)

- ・ 突然に伝えられなくなるという状態のイメージが今まではなかった。今回自覚した。
- ・ 介護する訓練はするが、介護される側の訓練はない。どう介護されるか戸惑うかも。
- ・ 実母を介護していた時は、いざという時について話していた。が、夫とかと話しができていない。
- ・ 妻が施設入所している。話したことがない。
- ・ いろいろ介護した。夫婦二人になっておいおい話すが、夫（男性）はあまり話したがらない。
- ・ 妻の父は、要介護4からリハビリして要介護2になった。良くなったからこそ話しにくくなった。
- ・ 両親は比較的若くに亡くなった。後で思えば話しをしておけばよかった。
- ・ 一人では何もできなくなる可能性もあるので、子供たちに迷惑をかける練習も必要では。

(「子供たちに迷惑をかけたくない」で良いのか?)

- ・ これからのことを話し合うためには、親が受診するのも他人任せとか本人のみで行かせるのではなく、家族がついて行って、医師の話を聞き、どんな薬を飲んでいるのか知ることが大切。
- ・ 子供たちが独立したので夫婦二人暮らし。今後の事については気になっていたが話したことはなかった。正月に長女が帰省し家族がそろった時に「これからの事についてちゃんと話とこう」と言い出し、話し合った。「ちゃんと紙に書いといて」といわれたけど書いていない。
- ・ 何を話すのかよくわからないのでシートみたいなものがあったら良い。ある一定年齢になったら全員に配布というのも良い。(たとえ10人に1人しか使用しないにしても)
- ・ いざという時に兄弟の意見がばらばらでは困るので、話し合っておくことが大切。
- ・ 最近はエンディングノートも本屋さんにたくさんあるので、利用してもいいかなと思う。

(質 問)

- ・ パンフレットの内容は大体分かったが、一番難しいのは医療処置で胃ろうとか人工呼吸器とかが、普段身近でなく知識がないので考えても思いつかない。誰でも「延命治療はしないでほしい」と思っているのではないか?

人工呼吸器なども初めて聞いて、その場で判断なんてできない。

- 救急車を呼べば救命処置を行う。少しずつ世間でも話が出始めた。その場で判断できないから普段からどうしたいかを話しておく必要がある。

「口から食べられなくなったら どうしたいのか」などでも良い。

- 病院では今後について医療の事も良く知っている相談員がいるので、そこで今後について相談ができる。実際色々相談にのっていただいた。

(講師：東部医師会在宅医療介護連携推進室・秋田和秀主幹、廣山恵看護師)